

平成29年度 事業計画

I 基本方針

上田市地域振興事業団は、地域住民の福祉の増進を図るため、地方公共団体等が設置する公共施設の受託管理等を行い、地域社会の発展と活力に寄与する目的を達成するため、事業活動を行ってまいります。

施設の受託管理にあたりましては、安全・安心な施設管理の徹底を図るとともに、上田市の施策として掲げられている「健幸都市」の実現に貢献できるよう、「すべては市民（利用者）の健幸づくりと笑顔のために」を当事業団のスローガンとして掲げ、健康増進に資する事業の実施に力を注いでまいります。

また、「おもてなしの心」を持って、利用者の立場に立った事業活動を通じ、地域社会の発展と活力ある地域活動に貢献することを目指してまいります。

II 主な事業

1 公共施設の指定管理業務

- | | |
|-------------------------|------------|
| (1) 農林漁業体験実習館 | (上田市) |
| (2) ふれあいさなだ館 | (上田市) |
| (3) うつくしの湯 | (上田市) |
| (4) 鹿月荘 | (上田市) |
| (5) 雲溪荘 | (上田市) |
| (6) 練馬区立武石少年自然の家（本館・新館） | (練馬区) |
| (7) 鹿教湯健康センター | (上田市) |
| (8) 武石森林公園マレットゴルフ場 | (上田市) |
| (9) 巢栗溪谷緑の広場 | (上田市) |
| (10) 番所ヶ原スキー場 | (上田市) |
| (11) 上田創造館 | (上田地域広域連合) |
| (12) 技術研修センター | (上田市) |

2 受託業務

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| (1) 地域情報化業務（マルチメディア情報センター） | (上田市) |
| (2) ネットワーク管理業務（マルチメディア情報センター） | (上田市等) |
| (3) 行政情報処理業務 | (上田市・上田地域広域連合等) |

Ⅲ 施設別の主な事業

1 温泉施設管理事業

(1) 農林漁業体験実習館（室賀温泉ささらの湯）

当館は、平成9年の開館以来20年を迎え、山間の緑豊かな静けさの中、温泉資源を活用した都市と農村との交流拠点の場とし、温泉は地下1,500mからの天然温泉100%で、泉質は肌がしっとりすべすべする「三美の湯」として、地元上田市の皆様をはじめ県内外の大勢の皆様より好評を博しております。

また、昨年度末には浴室内の改修を行ったことで、今まで以上に快適で寛げる施設となりました。

開館20周年の節目の年である今年度は、次の視点により、更に一層お客様に「親しまれる施設づくり」に努めてまいります。

- ① 良質な泉質の特徴を活かした宣伝活動として、市内の主な集客施設への定期的なパンフレットの設置や広い範囲での新聞・雑誌等の広告掲載を行い、「三美の湯」のさらなる周知を図ります。

また、新たに、送迎と研修室を利用した食事付きのパック料金プランを設け、入館者増を図ります。

- ② 開館20周年記念イベントは上田市担当課と連携し、当館のオープン記念日である6月20日(火)に合わせ大々的に開催する予定であります。

また、室賀地域の方々にご協力をいただいての定例イベント行事は、随時内容を見直しながら開催するとともに、ギャラリーサロン及び芝生広場への出品も継続して実施して行きます。

新たな取組みについては、毎月最終金曜日を「湯の日」と定め、ポイント2倍のサービスを実施し、プレミアムフライデーの効果を狙うとともに、「クール」及び「ホット」シェアスポットとして登録を行い、利用者の新規開拓に努めます。

- ③ 源泉の量や湯質、施設の衛生管理等における不測の事態にも速やかに対応できるよう、日頃から利用者目線に立ち細心の注意を払いながら安全・安心な施設を確保するため、市の担当課と修繕等の整備計画に基づき設備改修を行ってまいります。

(2) ふれあいさなだ館

当館は、平成5年の開館以来24年を迎え、設備関係の老朽化も顕著となっており、修繕・工事計画に基づき、市の担当課と順次営繕工事等を進めております。更に、徹底した源泉管理、設備保守点検等の実施により、緊急時の迅速な対応に心がけ、運営上支障をきたす事のないように管理運営を進めてまいります。

- ① 昨年の「真田丸」放映に伴う、利用者の増加が一過性のものにしないよう、温泉プール・トレーニングルーム・食堂・売店・福祉風呂の利用促進に向け、施設の総合的な楽しみ方の提案と健康増進施設としての利用を周知してまいります。

- ② 食堂運営につきましては、宴会・会食のリピーター客確保のため、旬の食材と地元の食材を取り入れ、メニュー構成や食材の見直しを定期的に行うとともに、送迎サービスを充実してまいります。

- ③ 売店運営につきましては、「真田丸」と甦る上田城「特別企画展」効果を狙って、ご当地ならではの真田グッズコーナーを設け、販売促進に努めます。

また、商品のレイアウトと入替をこまめに行い、商品構成のバランスをとりながら、お客様の購買意欲をくすぐるような売店を目指して運営します。

(3) うつくしの湯

当館は、平成11年の開館以来18年を迎え、自然の恵みである温泉を活用し、地域の皆様に保養の場を提供してまいります。また、健康・福祉の増進を図ることを目標に、地域に根ざしたよりよい施設となるよう、徹底した衛生管理とサービスの向上に努め、利用者増に繋げてまいります。

- ① 施設管理では、経年による施設・設備の不具合が生じていることから、計画的な営繕工事と保守点検等を行い「安全・安心」な施設運営に努めます。

また、衛生面につきましては、年1回の施設内配管洗浄と源泉からの引湯管配管洗浄を確実に実施するとともに、日々の衛生管理にも細心の注意を払い、事故防止に努めます。

- ② 大広間では、イベント用のステージを導入し、市民参加型の各種イベント「落語会」「夏祭り」「忘年会」等を毎月1回程度企画し実施するとともに、施設の広告宣伝等を積極的に行い、利用者増を図ります。

- ③ 食堂運営では、念願の送迎用マイクロバスを新規導入することで、業務の効率化と利用者の利便性の更なる向上を図るとともに、「マレットゴルフパック」や「うつくしの湯宴会プラン」の更なる周知に努め集客を図ります。

- ④ 売店運営では、地元福祉会からのパンやクッキーなどを取り扱い、上田市の障がい者施策に積極的に協力します。

また、武石産の四季折々の旬の野菜や花卉・そば・山菜等の特産物や加工品並びに、上田市や県内の特産品を販売することにより、地産地消の活性化を図るとともに、魅力ある売店づくりに努めます。

2 宿泊施設管理事業

(1) 鹿月荘

当館は、昭和63年の開館以来29年を迎え、地域の皆様へ隣接する「鹿教湯健康センター（クアハウスかけゆ）」とリンクした温泉施設利用による健康増進に努め、併せて利用者へのきめ細やかなサービスの提供を目標に運営を行っております。今年度は、環境省・上田市・公益社団法人日本理学療法士協会の「温泉を活かした健康づくりに関する協定」に関連する事業へ積極的に参加し、鹿教湯温泉と一体となって利用促進に取り組んでまいります。

- ① 日帰り宴会プランについて、利用者に分かりやすく、利用しやすいように、お気軽プランと贅沢プランの2コースに見直し、上田市民を中心に積極的な営業活動に努め、利用増進を図ります。

- ② インターネット予約サイト「たび寅」の取組みから3年余が経過することから、プランや料理内容及び金額設定等の見直しを行い、利用しやすく、魅力あるサービスを提供してまいります。

- ③ 今年度、鹿教湯温泉全体で取組む水中ポールウォーキング・もの忘れドック・100年ブランド創造プロジェクト・ふれあいポールウォーキング等に積極的に協力・参加し、相乗効果による利用者の増に努めます。

(2) 雲溪荘

当館は、昭和52年の開館以来40年を迎え、自然豊かな溪谷に佇む一軒宿として、宿泊客のみならず各種会合・法事等も含め、上田地域をはじめ県内外の広い客層からご支持をいただいております。更に、練馬区指定保養施設として練馬区民の一般客・少年団体における夏合宿の宿としてもご利用いただいております。

今年度は利用されるお客様からの意見を常に把握するとともに、フロント・厨房・配膳係の連携を今以上に進め、より一層のおもてなしを心掛け、サービスの向上に努めます。

また、例年以上にPR活動にも力を入れ、新規顧客獲得に努めてまいります。

- ① 練馬区指定保養施設として、人口70万人の練馬区民に向け、観光目的の利用客をはじめ合宿などの団体利用者をターゲットに、より一層のPR活動を行い、周知と誘客に努めます。
- ② 武石産食材及び信州産食材を多く取り入れ、地産地消に努めメニューを再考案するとともにお客様に好評な「ぶち入れ鍋プラン」、「信州牛すきやきプラン」を通年で提供し、地域の特性を生かした、お客様に満足して頂ける料理の提供に努めます。
- ③ 現在登録済みのインターネット予約サイト「じゃらんネット」、「たび寅」に加え、他の集客実績のある予約サイトへの登録を増やすとともに、地域の魅力を幅広く発信し、新規顧客獲得に努めます。
- ④ 各種イベントの企画を積極的に実施し、お客様に満足して頂けるサービスの提供に努めます。

また、他施設とも連携したイベントを実施するとともに、地元住民が良く見る媒体へ広報活動を実施し、利用促進に努め更なる集客を図ります。

3 練馬区施設管理事業

(1) 練馬区立武石少年自然の家

当施設は、本館は昭和55年の開館以来37年を迎え、新館は平成6年の開館以来22年となる東京都練馬区からの指定管理施設です。武石の優れた自然環境の中で集団生活を通じ、明日を担う少年の豊かな情操と自立・協同の精神を養い、創意と活力あふれる人間形成を図るとともに、練馬区民の健全な余暇利用を推進することを目標として建てられました。

平成28年度から新たに5年間、指定管理者として選定され本年度が2年目の年となりますが、これまで以上に利用者の安全と安心を第一に考え、施設の維持管理に努めてまいります。

また、昨年度より利用者の利便性向上策として、バーコードリーダー搭載の多機能レジスターを導入するとともに、精算時にカード決済が可能となりました。

なお、本年度は、予約システムの更新が決定しており、これまで出来なかったインターネットやスマートフォン等からのWeb予約が可能になり、利用者の利便性が大きく向上されることから、利用者の増を期待しているところです。

更に、閑散期の利用促進対策として行ってきた「上田市民キャンペーン」は好評であることから、閑散期のみだけでなく年間通した利用について練馬区に働きかけを行うとともに、利用者アンケート等による利用者の声に耳を傾け、更なる利便性の向上を図り、利用者増に努めてまいります。

<本 館>

- ① 本館の利用者の7割超は学校事業であるため、児童・生徒が安全で安心して宿泊学習が出来ることを一番に考えて管理運営します。特に食事提供におけるアレルギー対応は、子供の生死に関わることであることから、細心の注意を払うとともに、食中毒等を起こさぬよう、管理栄養士の下、衛生管理の徹底を図ります。
- ② 本年度より学校事業における体験学習に農業体験が加わる予定であり、武石地域の巢栗地区にある上田市民農園の一部を借り、希望の学校に農作業の体験をしてもらう計画です。希望する学校が滞りなく農業を体験できるよう、農地と農作物の適正な確保と管理を実施します。

<新 館>

- ① 練馬区からの直通バス廃止に伴い、高齢者利用が年々減少傾向にあることから、上田駅への送迎バスを毎日運行し、交通弱者の利便性を確保するとともに、利用者から希望の多い観光案内事業を、地元旅行会社とタイアップして復活させ、利用者増に繋がります。
- ② 季節ごとのイベント事業と希望者へイベント等の情報提供を行っている、「友の会事業」を継続して実施し、利用者が何度も利用したくなるよう進めてまいります。
大変好評な「夜空の観望会とロビーコンサート」を定期的に計画し、利用者への告知及び周知のため、広報活動を早めに行います。また、他の特別な企画イベントも計画し集客の増に努めます。
- ③ 本年度11月から12月中旬にかけ、練馬区により屋根の改修と外壁の塗装工事が、実施されることになりましたが、その間休館をしなければなりません。
これにより大幅な利用者減と収入減になることから、平日利用増を目的とした「レディースプラン」の企画や、利用者参加型の「家族で楽しめるイベント」等を実施し利用者確保に努めます。

4 情報業務等事業

(1) マルチメディア情報センター

当センターは、平成7年の開館以来22年を迎え、これまで一貫して上田市の地域情報化業務と学校間ネットワーク機器管理業務を受託し取り組んでおります。

この受託業務は、「第二次上田市総合計画」に基づく、地域情報化を推進する拠点施設として、市民ニーズを的確に捉えた事業を実施してまいります。

また、次代を担う児童生徒に対する情報モラルや情報活用能力の向上を図るため、学校教育の情報化を支援するとともにネットワークセンターとしての役割を果たしてまいります。

<地域情報化事業>

- ① 情報化社会に対応できる「人材の育成」を目的に、ワード、エクセルなどのオフィスソフトの研修や、市民からのパソコンなどの利用に関する相談事業、インターネット・携帯電話の安全な使い方を指導する出前講座等を行うことで、市民のICT（Information Communication Technology）活用の底上げに繋がります。

- ② 高度な技術者養成を図るため、フォトショップ、イラストレーターなどのデザインソフトの研修を行い、デザイン技術の向上を図ります。
- ③ 様々な科学分野の講師を招く「サイエンスカフェ」事業の強化と充実に努め 20 代から 40 代の利用者の増加を図ります。
- ④ 地域個性の情報発信事業として、上田地域の文化資産、観光資源などの収集・記録・保存をし、これらを紹介する Web サイトの運営等を行います。
- ⑤ 上田地域の情報化施設として、情報化に関する地域、企業、NPO、大学などとの連携を進めるネットワークセンターの役割と、アドバイスや情報提供などを行う情報技術の支援センターとしての役割を果たします。

<ネットワーク管理事業>

- ① 上田市学校間ネットワークや市内の博物館、美術館のホームページサーバの安定した管理運営を行います。
- ② 学校と同じシステムの導入、教材開発が可能な機材の設置などを進め、学校における情報教育の支援ができる体制づくりを進めます。

(2) 行政情報処理センター

当センターは、平成 24 年組織改革以来 6 年を迎え、上田市及び図書館システムを利用している構成市町村に対し、これまで同様「安全・安心な電算処理におけるシステム運用」が図られるよう業務を実施してまいります。

- ① 上田市総合電算運用管理事業につきましては、住民情報、税情報などの個別業務システムの運用のほか、庁舎間を結ぶ通信網を管理し、休日も含め年間を通じて正確なシステム運用と円滑な情報通信の確保と安全なネットワークの実現を図ります。
- ② 上田地域公共図書館情報ネットワークシステム（エコール）管理運営事業につきましては、上田地域広域連合内の図書館ネットワークの維持管理業務とサポート業務を行い、図書館利用者の利便性の向上に努めます。
- ③ 学校間ネットワーク総合管理・サポート事業につきましては、ネットワークの障害監視と障害復旧及びインストラクターの派遣によるパソコンのトラブル対応や相談等を実施し、情報機器の利用向上になるようサポートをします。
また、ICT 支援員による円滑な授業支援を行います。

5 日帰り施設管理事業

(1) 鹿教湯健康センター

当センターは、昭和 58 年の開館以来 34 年を迎え、8 種類の浴槽と 25 m プールを活用する温泉利用型健康増進施設として、隣接する「国民宿舎鹿月荘」とリンクしながら、市民の皆様の健康づくりに努めております。今年度はさらに広報活動や健康プログラムの提供に力を入れるとともに、適正な管理運営を行ってまいります。

- ① 水中ポールウォーキングをとり入れた教室等を開催するに当たり、指導要綱の作成を行いトレーナーの指導技術の均一化と向上に努めます。
- ② 自治会向けに「送迎付き健康プログラム」等を提案し、チラシ等による積極的な営業活動を進め、新規顧客の開拓に努めます。

- ③ 鹿教湯温泉全体で動き始めている今後の取組みと活動である、水中ポールウォーキング・もの忘れドック・100年ブランド創造プロジェクト・ふれあいポールウォーキング等へ積極的に参加するとともに、鹿教湯温泉一体となった誘客に協力し、相乗効果による誘客を図ります。

(2) 武石森林公園マレットゴルフ場

当施設は、平成7年の開設以来22年を迎え、豊かな自然環境のもと、地域の皆様に憩いの場の提供と健康増進の場所として親しまれています。今年度は、季節ごとに賞品付の競技会を計画するとともに、隣接する武石温泉うつくしの湯との連携をさらに強化し、団体利用者等への送迎サービスを行うなど、利用者増を図ってまいります。

- ① 今年度は、四季競技会・月例会・5月・10月の「武石森林公園 MG 場支配人杯」を計画・実施するとともに施設の積極的な広告宣伝活動を行い、リピーターの確保と新規利用者の発掘を図ります。
- ② 隣接する「うつくしの湯」との連携を強化し「マレットゴルフパック」の推進に努め、利用者の送迎サービスを実施し、利便性とサービスの向上に努めます。
- また、地域における様々なイベント等において施設利用割引券の配布を行い、売上増とリピーター確保に繋げてまいります。
- ③ 利用者の安全確保のため、自然災害等で想定される危険箇所の除去や、救急救命講習会を隣接するうつくしの湯と合同で実施し、有事の際に適切な対応ができるよう努めます。

(3) 巢栗溪谷緑の広場

当施設は、昭和53年に開所以来39年を迎え、上田市から美ヶ原高原・ビーナスラインへ、また、武石峠を経由して松本へ抜ける分岐点にあります。社会情勢の変化とともに、施設利用者の減少が著しかったため、これまでのドライブイン中心の営業から、食堂運営は武石産そばを中心に特化し、売店運営は地元の方が作る民芸品コーナーを充実させ、キャンプ場・釣り堀では「アウトドアの楽しさ」を前面に打ち出した施設づくりへと転換してまいりました。

- ① 手打ちそば処として再スタートをした食堂部門は、2階喫茶コーナーでの写真展や企画展を開催し、巢栗溪谷の魅力を周知させ、更に、手打ちそばメニューの開発を行い、食事の選択肢を増やし、料理売上と事業収入の増に努めます。
- ② 売店部門では、リピーター率が高い「真田丸」ファンのため、真田グッズ特設コーナーなどを設置し、売店の充実に努めます。
- ③ 釣り堀・キャンプ場では、「森の遊び塾」が好評であることから、更に、集客できるイベントを企画してまいります。
- また、ニジマス・イワナの焼き魚出張売店として、イベントへの参加にも力を入れ、収入増に繋がります。
- ④ 「そば道場」を定期的で開催し、「作る」・「食べる」・「楽しむ」処、「そば処 巢栗」として周知できるよう努めます。
- ⑤ 広報活動に関しては、フェイスブックの更新及び記事のアップを密に行い、最大限に活用し集客に努めます。

(4) 番所ヶ原スキー場

当施設は、昭和55年に開所以来37年を迎え、ウインタースポーツの施設として、上田市はじめ練馬区民の皆様方に御利用されてきました。しかし、近年の暖冬により、2年続けてスキー場オープンが遅れる状況となりました。そのため、今年度は、人工降雪機での降雪作業やゲレンデ整備作業等を見直し、スキー場開き当日からのオープンに向け取り組んでまいります。

また、お客様が当スキー場を安全に安心して利用頂けるよう、各種のシーズン前作業やオープン前の職員教育訓練等の充実と、徹底したシーズン中のコース管理に努めてまいります。

- ① 北陸信越運輸局による、平成27年度運輸安全マネジメント評価と、平成28年度索道保安監査を受け、索道施設管理の重要性を再確認し、索道従事者への教育の充実と安全に係るマニュアル等の周知を図ります。
- ② 索道設備以外の設備点検も確実に実施し、不具合箇所を早期に確認するとともに整備に努め、平成29-30年のシーズンに備えます。
- ③ スキー場からの情報発信として有効的なフェイスブックを活用した、タイムリーな広報活動に努めます。
- ④ 食堂部門では、昨年、長野県索道事業者協議会で開催する「ゲレ食バトル」へ参加しました。今年度も新規メニューを開発して、引き続きこのバトルに参加し、食の面からも誘客できるよう努めます。
また、利用客に「美味しい」、「また食べたい」と言ってもらえるような、スキー場メニュー全体の向上と見直しを進めます。

(5) 上田創造館

上田創造館は、昭和61年の開館以来31年を迎え、上田広域の文化創造、コミュニケーション活動の中核施設として位置付けられ、児童科学館と地域コミュニティの育成、芸術文化の振興、レクリエーション活動の拠点等となる複合施設として、地域住民に親しまれ、多くの利用をいただいています。今後も安全に安心して快適な施設運営ができるよう努めるとともに、更なる接遇の向上と環境づくりにも意を用い、利用者満足度の高い適切な施設管理を行ってまいります。

- ① 消防訓練や普通救命講習を実施し、緊急時に職員一人ひとりが的確な対応が取れるよう、安全管理の徹底を図ります。
- ② 利用者アンケート等による「お客様の声」に耳を傾け、迅速な対応と利用し易い窓口づくりに努め、サービスの向上を進めます。
- ③ 定期的に施設の設備点検や環境整備を行い、利用者が安全かつ快適に利用できるよう努めます。

(6) 技術研修センター

当センターは、平成9年の開館以来20年を迎え、企業等が行う人材育成、異業種間交流、技術研修等の推進を図ることを目的として事業を行ってまいりました。

平成25年度には、インターネット利用環境を整備し、ネットを利用した会議や研修が可能となりました。

また、平成２８年度には、宿泊棟にも無線 LAN 環境を整備し、個室の日帰り利用が可能となりました。今年度は、企業及び団体等に、積極的に利用を呼びかけるとともに、昨年度同様、利用形態や利用状況等に応じた施設運営に努め、サービス向上と利用促進に結びつけてまいります。

- ① 宿泊棟の個室利用が日帰り利用可能になったことの周知に努め、積極的に施設の利用促進を図ります。
- ② 平成２２年度から宿泊棟における宿泊が原則中止になったため、現在は利用がない宿泊棟について、市と連携・協議しながら新たな活用を進めます。

IV 法人管理

事業団合併から７年目、効率的な法人管理と一体的な管理体制を図るため、改革した事務局の一元化から４年目を迎えます。

本年度は、組織の縦と横の連携を固めるとともに、大事業間及び同種事業間等との施設間交流を行い、総体的な施設の活性化を進めます。

また、事業団の基本方針に沿った事業団全体が進む方向を合わせ、一体感の醸成と施設利用の促進を図るため事業を進めてまいります。

- ① 定例の施設長会議及び月次実績・組織・予算等の各種ヒアリングを継続的に実施し、施設運営のサポートと情報の共有化や組織としての人材育成を行うとともに、各施設の状況を迅速に把握することにより、健全な管理運営に努めます。
- ② 職員のスキルアップと次世代職員の育成を目的として、温泉施設におけるサービス向上に関する研修や、昨年から続くメンタルヘルス研修を計画し実施します。
また、外部講習等への参加促進を継続的に行い、「自主研修助成制度」の更なる周知と活用も進め、人材育成に取り組みます。
- ③ NHK大河ドラマ「真田丸」の放送終了後も続く、「真田丸」効果、そして上田市が進める特別企画展「４００年の時を経て甦る上田城」への協力・連携を行い、第三弾となる「六文泉巡りスタンプラリー」など、市の観光施設と事業団施設との相互利用を図るためのイベントを開催し、事業団施設全体の利用促進と収益の増に努めます。
- ④ 広報活動として、ホームページ、フェイスブックを利用したリアルタイムな情報発信の充実を図るとともに、昨年に引き続き「真田丸」関連広告で効果のあった沼田市をはじめ真田街道に関連する地域などへ、利用者目線に立った積極的な広報活動に取り組みます。

また、当事業団が管理運営する各温泉施設の入浴剤をオリジナルで商品化し、各施設で販売できるよう取組み、販売促進と収益増に努めるとともに事業団の温泉として周知できるよう努めます。

- ⑤ 一般財団法人移行に伴う「公益目的支出計画」に沿った、上田市への寄付後２年目となる本年度は、さらなる適正な資金管理を進めるため、収支にバランスの取れた経営と資産状況の把握を行い、堅実で健全な営業展開を図ってまいります。
- ⑥ 職員が「健康で快適」に働くための取り組みとしては、運動奨励、疾病予防を推進するとともに、メンタルヘルス・ハラスメントに関する相談窓口を設けるなど環境を整え、各施設での安定的な労働力の維持と確保に努めてまいります。